

中京大学英米文化・文学会 秋季大会特別講演会

「日常のなかのシェイクスピア」

"Shakespeare, Intermedial Translation, Transmedial Circulation"

白百合女子大学教授 南 隆太氏

10月27日(火) 午後1時10分より、名古屋キャンパス5号館523教室で「中京大学英米文化・文学会秋期大会特別講演会」が、国際英語学研究科英米文化専攻との共催で、白百合女子大学教授の南隆太氏を招いて、開催された。南氏は日本・アジアにおけるシェイクスピアの受容に関する研究で世界的に活躍しておられる。

シェイクスピアの作品は英語圏以外の文化的伝統や背景を持つ舞台と出会いながら常に変容を続けてきたが、このようなある意味で「正統な」シェイクスピアの受容や変容のほかに、たとえば、テレビドラマ、CM、アニメ、マンガ、さらにはインターネット上のサイトなど我々の日常にはシェイクスピアが溢れていて、多様な変容を繰り返している。「メディア間」で起きているシェイクスピア翻案や「メディアを越えた場」で起きているシェイクスピアの流通の実例を、映像を使って、紹介しながら、こうした新しい動きの中に、新たなシェイクスピア解釈が生まれる可能性と、我々にとってシェイクスピアとは何なのか改めて考える契機があると氏は指摘した。

学生、学会員をはじめ、一般市民も加わって100名ほどの聴衆が熱心に耳を傾けた。

(国際英語学研究科英米文化専攻教授 酒井正志)